

[*nine*]

9

9(nine) 作品解説

大橋可也

[nine]

# 9 はじめに

- 作品についての解説を作家自身がおこなうことの意味
  - 作品の解釈は自由
  - 解釈の幅を狭めるものではない
  - 作家の意図を超える理解を促すために、あえて作家の意図を明らかにする
  - 作品の制作過程を可視化しオープンにしていくことで作品の可能性を広げたい
- タイトルについて
  - 命名は思いつき
  - 「9」という数字＝一桁の数字の中で最も大きい＝広がり

[nine]

# 9 作品の世界 (1)

- ・ テーマ

- 現代における女性の疎外

- ・ 広がった選択肢、可能性
- ・ 消費社会の中心的存在
- ・ 不安さえも消費の対象となっている
- ・ 地域社会の崩壊=家庭に入った女性の孤独

- 全体主義社会における個人の抑圧

- ・ グローバリズムに対する反動
- ・ 原理主義社会
- ・ 現在の日本人にとっても対岸の火事ではない
- ・ 日本の過去の体験を忘れてはいけない

[nine]

# 9 作品の世界 (2)

- ・ アイデア
  - 9つということから
    - ・ 1人の女性が持つ9つの可能性
    - ・ 枝分かれしていくこと、立ち止まること
  - 対立するもの
    - ・ 大橋可也の世界
      - 匿名性
      - モノクローム
      - コントロール
    - ・ 東野祥子の存在
      - コラージュ
      - 極彩色
      - 直感的

[nine]

# 9 作品の世界 (3)

- ・ ストーリー
  - 個人の記憶をトレースする
    - ・ 9歳の東野祥子
      - ダンスを始めたのは10歳
      - 人生の最初の分岐点の手前
    - ・ ダンスをしていないもう一人の東野祥子
    - ・ 現在の東野祥子自身
  - 大きな物語
    - ・ もう1つの日本
      - 歪められた伝統=原理主義
      - 全体主義が支配する社会

[nine]

# 9 方法論 (1)

- ・ ダンサーの内的体験を構築するために
  - インストラクション
    - ・ シンプルさ = 記憶しやすい
    - ・ 無意味さ = 記憶しづらい
  - 感情移入
- ・ 関係性の構築
  - 傾きと距離のこだわり
  - あらゆる関係
    - ・ ダンサーと観客
    - ・ ダンサーと空間
    - ・ ダンサーと振付家
    - ・ 観客と空間
    - ・ 観客と振付家

[nine]

# 9 方法論 (2)

- 作品構成
  - 3つの世界
    - 工場
      - 支配された空間
      - 人間が出来上がる工程
    - ヨウコの部屋
      - 限られた楽しみ
      - 外界の事件
    - 牢獄
      - 拘束と開放
      - 閉ざされた地上と開かれた空

[nine]

# 9 外部

- 日本の現状
  - コンテンポラリーダンスをやる、見る機会は増えてきた
  - しかしながら、果たしてそれは「コンテンポラリー」であるか
  - 同時代性の問いかけが必要である
  - 作品制作の主体を作家が担っているか
  - 一過性の作品制作に留まっていないか
  - ダンスを取り巻く言説に作家は関わっているか
- 目指すもの
  - 振付家、ダンサーが常に主体であること
  - 継続的な作品の発展
  - ダンスを語る現場を作り出す



## インストラクション（抜粋）

- ごめんなさい × 4
- トントン × 2
- ターン × 4
- ごめんなさい × 2
- キック × 3
- 左手 × 19
- 首振り × 2
- 左手 × 2
- 首振り × 6
- ごめんなさい × 3
- 左手 × 6
- 立ちくらみ途中まで × 2
- 半回転 × 2
- ゲロ床まで
- ターン × 1
- 左手
- 右足すべる
- 立つ
- 振り向く
- 右足すべる
- グニャリ
- ゲロから立ち上がる
- 右足すべる
- グニャリ
- ゲロから上体起こすまで
- 右回り繰り返す
- 雑巾から立ち上がる
- 雑巾繰り返す
- 右足すべる途中まで
- 立つ
- プルプル
- 横移動
- ゲロ床まで
- 立つ
- ふらー
- キック繰り返す
- 振り向く
- ごめんなさい
- 首振り × 8
- カックン
- 矢沢さん × 1.5 で床まで
- プルプル
- コロン × 2

## スコア（抜粋）

- カナリア
  - 水脈（みよ・娘）を信次（元夫）が迎えに来る
  - スナックカナリアに出勤
  - この日はママが休み、1人で店番
  - 常連の矢沢さんが来店
  - 水割りを作ろうとするが、こぼしてしまう
  - ごめんなさい
  - 矢沢さんのズボンを雑巾で拭く
  - 左手を矢沢さんにとられる「今日ぐらいいだろう」
- 朝食
  - 水脈と一緒に朝の食卓
  - 会話をしようとするが、いいことがいえない
  - 給食袋を渡されるが、丸めて捨てる
  - 二日酔いなので吐く
  - おしっこをもらす
  - 後ろの薬棚にある精神安定剤に手を伸ばす